

女の会通信

■ 特集「私たちの明日のために」
反戦・反核 特集

■ お知らせ

■ コーヒーブレイク

1986 8.15

■ ■ ■ 女たちの明日のために ■ ■ ■

先日行われた衆参同日選挙で自民党は三〇四議席を獲得して圧勝、その勢いでもって、中曽根の任期延長はもはや避けられない状況となつてきました。ともかく、形のうちでは国民は中曽根流の政策を支持し、これからもその継続を望んでいるという結果が出たわけです。秋の臨時国会での国鉄民営化を手始めとして、彼一流の政策をゴリ押ししてくるのは目に見えています。

そのような右傾化の波の中で、平和と民主主義をどうして守つてゆくのか……。今までのような政党主導・労組動員といった運動のあり方はもはやゆきづまりを見せていると言えましょう。

本当に大切なのは自分達の足元生活している地域ではないのか……。そのところをしっかりと見つめて、生活レベルでの運動をしている市民グループを紹介して、改めて平和と民主主義を考え直すきっかけにしてもらえればと希望してやみません。

「足元から平和をみつめ直そう」
八月一日に結成集会がおこなわれたばかりのピース・バス長崎の代表のおひとりです。

ピース・バス長崎の
基本的な考え方

F・K

① 三菱の兵器生産の実態
被爆地長崎で兵器生産が行われていることを知らない人が意外と多い。

三菱重工は日本最大の軍需企業、兵器産業である。同社は、一九八五年度には、兵器などの防衛庁発注総額の二一・八%を占めてトップであり、この座は二一年続いている。

長崎造船所では、年一隻の割で軍艦がつくられ、アスロツフ弾やMK46といった魚雷がつくられている。また長崎港に軍艦が浮かんでいない日はないぐらいである。この長崎造船所の全生産高の中でこれらの兵器生産関係がどの程度の割合を占めるかといえは、昨年度の実績によると一三%である。つまり簡単にいえば、長崎の三菱の仕事の一三%は兵器生産、軍事関係だということになる。その工場はいえは、幸町工場では、魚雷の製

道が行われ、三菱本館ビル下の電武装課工場では艦載武器および電動機その他付属品の修理が行われ、香焼長浜工作課では、軍艦の艦艇自体がつくられ、八軒屋岸壁ではその軍艦に種々の装備・設備を施すことが行われ、諫早中核工業団地では最新鋭魚雷MK46が製造され、長手・堂崎にはみかん山に囲まれた静かな入江に魚雷発射試験場がある。

② 被爆地長崎と兵器生産

私達は、被爆地長崎と兵器生産は全く似合わないと思う。それどころか、二度と戦争をしてはならないと永遠の平和を誓った被爆地長崎で公然と兵器生産が行われていることは異常だと思う。

なぜなら、かつての長崎は巨大戦艦武蔵をつくったほどの一大軍需都市であったのであり、それ故に原爆投下の目標にされたのだった。だから、ほんとうに非戦・反核・平和を求めろのなら、長崎は二度と軍需都市の道を進むべきではないし、従ってまた当然、憲法第九条の非武装平和主義の道を歩むべきだと考えるからである。

私達にとって長崎は「永遠の平和都市」であって欲しいのであり、それを真剣に追求すべきだと思う。今また兵器生産が常態化し、軍需都市になつてゆけば、長崎が再び主要な攻め目標とされる

ことばを待たないのであるから。

③ 虚偽に満ちた危うい平和

反戦と言つても反核と言つても私達には少しもその対決点は見えてこない。一体誰に向つて、何に向つて反戦、反核なのか。

戦後日本には明らかに戦争アレルギー、核アレルギーとよばれるものがあつた。しかし、それは今やもうないと私は思う。それを確実に風化させたものは、自衛隊であり、安保であり、米軍基地であり、米原潜・原空母の度重なる入港であり、原子力発電であつた。アレルギーがなくなつた証拠には、わが国民は日本列島を不沈空母にしよう、軍事費一%枠をはずえうと言ふ軍拡論者に先の衆参同日選挙で圧倒的支持を与えたのであつた。

状況は愕然とするほど悪いと思う。軍拡と復古の潮流が確実な政治の中核を掌握しているのに、国民の約半分はそれに支持を与え、かたやそれに反対の陣営は全く対決点を見出しえないのみか、逆に中曽根に反対し危機を唱え平和を許えることの方が空虚に響き、どこかシラケた雰囲気さえかもし出してしまつたのであるから。

多分国民のほとんどが戦争に反対である。そして今は平和だからいいと思つている。しかしなんと虚偽に満ちた、うい平和であることか。

④ 足元から平和を求めよう

戦争はある日突然どこからかやってくるものではない。私達の日常生活の中に戦争を容認するものが徐々に形成されてゆくのである。私達がいくら口で平和を求め戦争反対を唱えても、私達の足元・身のまわり・日常生活の場で兵器生産を許しそれが常態化してゆくならば、私達の心と生活はいつのまにかそれに慣れ、口で言ひ事とは裏腹に戦争の小道具兵器とその論理に裏和感をもたなくなつてゆく。戦争アレルギー、核アレルギーの風化であり、戦争への道ならしである。そのことが恐いのである。

皆が平和主義者であり、皆が平和を求めながら戦争への道に抵抗することができないとは一体なぜか。それは私達が口で言ひ事をしていて、実際に行動にうつしえないからである。実際の行動の場で明確な対決点を設定しえないからである。

ほんとうに戦争に反対なら、私達は自分の足元の兵器生産を問題にしなければならぬ。極端に言えば、守保も自衛隊も放つておいていい、今自分達の生活の場で行われている兵器生産に反対しよ。この兵器生産こそ戦争の芽であり戦争への道ではないか。労働者にとっては生活と雇用、長崎にとっては景気の良し悪し、そのことを賭けて

今、道の選択を迫らう、それが「ピース・バス長崎」の提起するものだ。

もはや一般的に反戦反核を唱えても、どこにも対決点を見出し得ないまま私達のエネルギーは何事もなかつたようにどこかに吸いとられてしまつてしまふ。このままズルズル後退したくはない。どこかで歯止めをかけなくては。国政選挙では敗北した。そりすると最後の夏のとりこは私達の生活の場以外にないのではないか。下から身まわりから生活の場から地域社会から、もういっぺん私達の平和と民主主義を鍛えあげていこ、どこに真の平和のための正念場があるのではないか、私達はそり考えている。

⑤ 「ピース・バス長崎」の目標

では実際に「ピース・バス長崎」はどのような平和運動をしようとするか。

オ一に、オ二回、オ三回のピース・バスを走らせて出来る限り多くの人達に被爆地長崎の三菱の兵器生産の臭態を知ってもらいたい。私達は天気のいい日に弁当をむつて子供づれ家族づれで兵器工場を見て回わり、私達の安全と平和のためにどりしたらよいか真剣に考えたい。大村自衛隊基地や佐世保米軍基地等を見てまわるピース・バスも計画したいと考えている。

才二に、長崎市や県に対してその平和政策を問うていきたい。被爆地長崎で兵器生産を許しているのか、長崎市の学校における平和教育はなぜやがみきつているのか、なぜ非核都市宣言ができないのか、私達は被爆地長崎の平和政策のタテマエとホンネの違いを徹底的に追求したい。そして長崎を国際条約でその安全が保障された「無防備地域」にすることを、これが大きな目標である。

才三に、私達は三菱に対しても兵器生産の即時中止と平和産業への転換を要求していきたい。真の雇用の安定と労働の喜びを回復するために。また企業の内と外の両方における平和と民主主義を健全なものにするために。

才四に、私達は、軍事力による平和がよいのか、それとも非武装の平和がよいのか真剣な学習を積み重ね、多くの市民によびかけてシンポジウムを開き、平和をめぐるあらゆる日常的な行動や運動と連帯して、私達の生活のほんとうの足元から平和を求めていく草の根の平和運動をめざしたい。そして被爆地長崎が真の平和都市になることを目標にしたい。

どうか皆さん会員になって下さい。みんなの英知と新しい発想と平和への不屈の意思をよせ集めて、なんとかして平和を私達のものにしようではありませんか。

「ピース・バス長崎」会則

第1条 (名称) 本会は、「ピース・バス長崎」と称する。

第2条 (目的) 本会は、被爆地長崎において戦争につながる一切のものに反対し、平和な地域社会をつくりあげる目的をもって、研究活動、情宣活動、その他必要と思われる様々な活動を行う。

第3条 (会員) 本会は、前条の目的に賛同する個人で構成する。

第4条 (機関) 本会の活動等にかかわることは、その時々集りにおいて決定する。

本会の運営を円滑にするために代表と事務局をおく。

第5条 (会費) 本会の会費は、年間2,000円とし、会計年度途中からの入会については、その都度相談するものとする。ただし、家族会員は、2,500円とする。

会計年度は、1月1日から12月31日とする。

卒お問い合わせは「F」まで)

・身の回りから有害なものを追放しより、自分の出来る範囲において、「島原平和を考える会」は八一年に発足。会員のおひとりです。

平和を「考える」ということ

I・T

小学四年生のとき初めて、広島にある原爆資料館を見学した。いとこが、広島市内の我家とすねてきて、私も一緒に誘ってくれたのだ。夏の暑い日だった。帰りにかき氷を食べたけれど、かき氷のみつの赤さが血の色に見えてきて……、とうとう食べられなかつたの思い出す。それから二週間位、毎日、夢に出てきた。当時の資料館は、はいってすぐのところ、被爆当時の洋服を着せたマネキン人形が置いてあった。人形が強烈な印象として残っていたらしく、暗い、まっ暗な中を、たくさんの、あのマネキンのような格好をした人たちがうごめいている、といった内容の夢だ。夜、寝るのが恐いくらい、毎日見続け、こわくなって目がさめると、隣りに寝ている祖母に抱きついて、

「また、恐い夢を見たんよお。」

と泣くと

「昔のことよねえ。」

と背中をさすってくれたの思い出す。

今の私に、「昔のことだ」と言われても、安心して眠ることはできないと思う。過去にあった事と、現在の状況を考え合わせると、もっと大きな恐怖や不安を覚えるからだ。

平和を考える会というのも不思議だと感じられる人が多い。何故、「守る会」になかったのかと言われる。過去に戦争があり、今は「平和」な状態なのだという意識においては、「守る会」というのが当たり前だろう。

私は平和な状態ってどんなだろうということや様々なところから調べ、話しあって行くことが重要で、守るべき「平和」というものは、存在しないと思っっている。また、原子力発電所の問題、合成洗剤の問題、添加物の問題等も、反戦・反核と同じレベルで考える必要がある大切なテーマだ。すべてが生きものの生命に関わる問題だから。

「自分だけが心地よい生活」じゃなくて、「生きるものがすべて」の視点に変わったのは、ここ三、四年だ。合成洗剤って格好いいし、手軽だけど、河は汚れるし、自分のからだにもよくない。添加物・農薬についても、自分や他人のからだや生態系を大切にしていきたいと思うと、気になる。原子力の平和利用、ということと、ずつと教えられてきた世代だけど、今では、平和利用というこ

とはすうあそろしい。

自分の生活の中に閉じこもっている。まわりが見えなくなり、見えていいるはずの自分も見えなくなる。家庭といりせまいおりの中にいて、話す人が限られてきて、何が本当なのかわからなくなる。家庭といりののは、はなれ島だといりののは本だが、そのはなれ島から、舟をニぎ出して、自分ができることをやって行きたい。組織の中の一員としてではなく、常に、自分ができるとは何なのか、もどってみようと思う。私のよりに専業主婦で、子どもも小さく、つれあいの両親と同居していると、網の目のよりに張りめぐらされた二世間の目利といり奴に、首をしめられろりになる。平和を考えるといり当り前のテーマも、当り前でなくなる。それを返すかは、つしなげればしではなくて、つししたいしでは、？。義務感も必要な時はあるが、「自分がしたいから」こそが人を動かす原動力だと思う。

島原平和を考える会のあゆみ

★八一年二月発足、毎月例会オ三火曜日

★「島平会ニュース」発行 七月ご坊号

★核実験抗議の座り込み三三回（於霊丘公園）

★平和問題・有機農業に関する映画

★「有明海を守る市民貝塚大会」

★平和講演会（八回）

★演芸会（五回 砂田明さん他）

★反核コンサート（六回 プロ・アマチュア）

◇今までのイベントご一番きつかったのは、

八三年三月のエンパークヤラバンド島原から佐世保まで三日間歩いたこと。（五人ご）

◇島平会から派生したものの

★安全な食品を売る店「カトマンドウ」

★有機農法の野菜の販売ルート拡大

★佐世保無農薬野菜の会（山岸会）

★島原南高戦災を記録する会

（今年七月にオ一号発刊）

★北九州平和を考える会

（核実験抗議の座り込み）

平和公園でおこなわれていた核実験に抗議する長崎市民の会合の座り込みの、最初から中心メンバーのおひとりです。

核実験抗議に思う

岡村 進

核実験の抗議を始めて満十二年になる。五人で始めた座り込みも最近では四十人ぐらいに増えて抗議の輪はすこしずつ広がっている。七月二十七日で通算二百三十八回になる。

でも、世界の核情勢は相変わらずである。ソ連、アメリカの核大国はこのごろになり予想される核戦争の結末にすこし心配しはじめたのか核実験について交渉を開始する動きが見られはじめた。ソ連は昨年八月六日から核実験の中止を呼びかけ実行しているが、アメリカ、フランスはそれに応じる気配を見せていない。ソ連は核開発の無意味さにやつと気がついたのだろうか。

ところが、今年の四月におきたチェルノブイリの原発事故で核についての一つの問題提起がなされた。放射能汚染の問題である。日本をはじめ、アメリカ、ソ連でも原発は二重三重のチェックがしてあるので絶対に大丈夫だと言いつつ続けてきた。日本では十二年前の一九七四年に原子力船「む

つ」が原子炉をほんのすこし動かしたところで、放射能もれをおこした。それ以後動いていない。次はアメリカのスリーマイル島の事故である。チェルノブイリの約十分の一程度の放射能が放出されたというが、これは広島原爆の約百倍の量である。

実害がはつきり出て世界中を驚がくさせたチェルノブイリの原発事故は広島原爆の十倍の放射能の量が大気に放出されたといわれ周辺の国々をも汚染した。ソ連はスリーマイル島の事故の時は、我が国ではこのような事故は絶対に起こらないと言っていた。

今まで述べたことは最近の問題であるが、戦後アメリカを中心に千五百回以上の核実験が行われてきたが前半はほとんどが大気中での実験であった。問題のビキニでの実験は十七メガトンというから、広島原爆の十倍以上のエネルギーである。当初のネバダでの核実験では予備知識のない数多くの兵士が実験台にされて、被爆している。この人たちの多くはガンで死んだり、今なおガンに苦しめられているという。放射能の降下したネバダの砂漠でロケをしたという多くの映画人と共にジョン・ウェインはガンで死んだという。

ミクロネシアのビキニ周辺の島々の人たちは更に悲惨である。島の人たちを「核実験は平和のた

めで神のおほしめした」といってアメリカは実験をする島々から住民を近く、島々に立ちのかせている。そして、予想以上の放射能のために近くの島々にいた多くの住民がガンで苦しんでいる。

更にこういった各地の核実験場は住民を苦しめている。南太平洋のムルロワ、オーストラリアの砂漠、中国のゴビ砂漠、ソ連のシベリアなど、地上での実験が多いので相当な被害もでていと思われれる。私の場合も長崎原爆の放射能のせいか体調がおかしくなったものである。

昭和二十年八月九日は私は諫早中学校の四年生で学徒動員で諫早の山の中の飛行機工場に仕事をしていた。ピカソとした強力な光を感じ、ガラス窓がはずれるぐらいの爆風を感じた。でも、どこで何が起ったのかさっぱりわからなかった。十二時からの昼食は配達された弁当で工場の外で食べた。工場といっても当時は山ぎわのあちこちに分散していてトラックのような建物に機械がはいっていた。長崎の爆心地から十七キロぐらいのところだった。原爆の資料を見ると原子雲は十二時ごろに工場の真上にさしかかり、一時間ぐらいかかって雲仙の方へ通過している。その間、外で弁当を食べ、休息をしていたのである。長崎方面はいつまでも黒ずんだ雲におおわれていて、空から燃えがすの灰のようなものが落ちてきた。

何か長崎方面でおこっていると思つたものさっぱり分からなかった。夕方になつて、やつと陽がさしたように思う。

その日の帰りにはもつと不思議なことに出会つた。私はこのころ北高来郡の湯江から汽車通学していたので、汽車におくれないうように諫早の市内に通リかかった時異様な行列に出会つた。髪はボサボサで焼けこげた衣類をまとい顔はすすたらけといった人たちが歩いてるのである。しばらく立ち止まつて眺めていたが、汽車の時間が気になつて東諫早駅へ急いだ。しばらくして汽車は着いたが客車に乗りこんだが、まず異臭にびっくりした。くさつた魚が焼けたような臭いである。そして、シートには黒ずんだこげたようなものがくっついていて床は水で洗つたあとがあつたが隅の方には血のあとが残っていた。すぐには登ごころの光や音とは結びつかずなかつたが、その列車は長崎の被爆者を運んだ救援列車だったのである。

その時二年上の姉は長崎の工業学校で被爆していた。県の女子工員指導者養成所で三ヶ月の講習を受けていたのである。当時の工業学校は今の南山高校のところにあつた。姉は翌々日、同じ学校の友人を探しにこられた人に助けられて、家にもどつてきた。やつと助かつたと思つていたが、十六日に静かに息を引きとつた。十七才だった。

その後一年ぐらいたった夏から私の体に変調が
みられるようになった。それまではいくら泳いで
も平気だった水泳が、すこし泳いだだけで動悸が
ひどくなり、生汗がべつとり体中にでるようにな
った。冷たい牛乳やかき氷など食べるとむかつい
て具合が悪くなった。そして風雅をひきや
すくなり、夏でも毛布を体にまきつけなければ休
めなくなっていた。初めて血圧を計った時は五十
から八十ぐらいたった。今思えば放射能の影響で
はなかつたかと思ふようになった。

放射能の恐ろしき特にプルトニウムのことわざは
映画「シルクウッド」によっても知ることわざは
たが、今年の六月には東海村で国際原子力機関の
査察官を含む十二名がプルトニウム汚染を受け
たと新聞は伝えている。

このままの調子で原子力発電所が動き続け、核
実験が続けられたら、核戦争がおこなわなくても、
地球は放射能汚染のために生物の住めない天体に
変わるのではないかと思ふ。

私たちは核実験が核戦争のための準備であるこ
とを知っているが、日本人の中にも核保有国の多
くの人は核実験に見られる核兵器の開発が平和を
守っていると信じている。そのまうな核でバラ
ンヌをとる核抑止論は危険な火遊びだと思ふ。

そのまうな核抑止論を上手に言ひの中曾根であ

る。行政や政治家はすなわち民衆をよくたます。
その中でも今の総理の中曾根のたまし方は実に手
際がよい。彼は手品師になった方が人類の生存に
役立つ人ではないかと思ふのだが、今から三十年
ほど前にアメリカから日本に原子力を導入したの
も中曾根である。核に拒否反応をもつ日本にどの
よりな手を使って導入したのかよく知りたいもの
である。

本当に核の恐ろしき、放射能のことわざを知って
いるのは被爆者であるが、その被爆者も数少なく
なっている。私たちは被爆者であらうがなからう
が被爆の事実を見ずえながら、反原爆・核実験の
抗議を続けなければならぬ。こういつた行動に
は、或る意味での非難や中傷が付きものであるが、
そんなことをいちいち気にしていたら、平和を守
ることはできないと思ふ。

核実験に抗議する市民の会の行動はもういつた
ことを乗り越えたものである。この文を読まれた
人は、一度は座り込みに参加されて、みんなとい
つしよに平和を考えてみて下さい。



お知らせ

「エミタイ」(71)は、アフリカ映画界の巨匠ウスマン・センベーン監督の日本初公開作品、日本で初めて紹介されるセネガル共和国の映画でもある。この作品は、センベーンの名編第二作、フランスの植民地支配下で、強制的な米の取り立てに対する村人の抵抗、これに自分たちの生活を守ろうとして先頭に立つ女たちを描いている。歴史上の事件を素材としながら、伝統社会の側面を批判的視点で見事にとらえ、かつ未来の闘いを予感させる。

エミタイ
EMITAL

ナイルの
ほとりの
物語

この映画は長くイギリスの植民地・半植民地の状態にあったエジプトが、一九五二年、ナセルたち自由将校団の革命で名実ともに独立を勝ちえたあとの物語だが、なおエジプト社会に残る古い支配体下の社会的多難、それを乗り越えて進む民衆たちの力強い前進、とりわけヒロインに象徴される新興田女性の誇り高い自立の姿を描き、深い感銘を喚ぶ。

とき ■ 9月14日(日)
ところ ■ 県総合福祉センター
チケット ■ 一般・大学 ¥1,000(当日1300)
(発売は8月10日から791円(税別))
主催 ■ 長崎より映画をみる会
TEL 24-2974

「ピース・バス長崎」
* 九月二十八日(日) 午前十時集合
* 県営バス本社前(幸町)
* 参加費 ニッパの円前後の子定(家族は割安)
昼食は各自で用意

* 貝塚コース 幸町(鮎の浦)香焼(長与望崎)謙早
* 甲し込み 長崎市三原町九〇九一二
TEL 四五一四一(細川まで)



コーヒーブレイク

選挙は自民党の大勝で終りましたが、本当にこれでもいいのかなあという思いで一杯です。個人や団体の利益だけを考えると、もっと大きな世の中の流れにはほとんど考えがおよんでいないのは、大変残念です。(T.A)

朝露の中で野菜をもらったり、自家飼育の鶏をつぶして食べたり、このところ田舎(夫の実家)での生活が何より心が休まります。もうすぐお盆、早く帰りましょう。(N.F)

今日はTシャツと短パンで泳いでしましました。楽しかったです。国民をだます時には目の前の楽しみにうつつをぬかすことを奨励し、有事となれば同じことをしても非国民呼ばわりされるのよぬ。(Y.K)

また、あつり夏がやってきました。反戦・反核が街中に出廻り平和を叫んでいます。核、戦争はけつて平和を語るのには危険だと。

発行所	長崎・女の会「女の会通信」編集委員会 長崎市中園町4-17(山田善子気付)44-8892	事務局	長崎市滑石町4-1-601 (栗山洋子気付)56-7595	印刷	あと印刷 1592
-----	---	-----	----------------------------------	----	-----------